

# 赤磐市立山陽北小学校の取組

## 【授業力・学力向上のための処方箋】

### 〈その1〉 学校・学級などのルールのメンテナンスをする

- ① 全員に伝える→質問した子どもだけに伝えると聞いていない子が混乱する
- ② ルールの意味をしっかり伝える→ただ禁止したい強制したいするだけではいけない
- ③ 一度決めたルールは必ず守らせる→一度例外を作ってしまうと抑止力がなくなる

### 〈その2〉 スピーチ・日記の内容を指導していますか

- スピーチ→テーマの工夫・事前に原稿を書かせておく・感想は2文以上など
- 日記→「したこと日記」は×・題を工夫する・感情を表す言葉をできるだけ使わないなど

### 〈その3〉 国語辞典は常に机の上に置き、とにかく使わせる(3年生以上)→言語感覚を磨く

- 国語辞典使用例
  - ・「水」など簡単な言葉を自分が辞書を作る人になったつもりで考えてから実際に引いてみる
  - ・道徳で「友情」を引かせて、導入にする
  - ・算数で「円」の意味を調べさせる→定義の学習に役立つ
  - ・係活動で「辞書クイズ係」を作る→係の活性化と知的な学級の風土が生まれる

### 〈その4〉 授業と発表の「あいうえお」を大切にする→教室に掲示して常に意識させる

- (授業の「あいうえお」)  
あ…「あ！」 い…「いいね！」 う…「うまい考えだね！」 え…「えっ？」 お…「おー！」
- (発表の「あいうえお」)  
あ→あかるく い→いきいきと う→うれしそうに え→えがおで お→おもしろい内容を

### 〈その5〉 フリートークを使って授業の話し合い活動をする力を鍛える(布石を打つ)

- フリートークを使って授業の話し合いの仕方を指導する→話す力と聞く力を両方鍛えられる
  - ・授業は布石の連続です。指導案の中に話し合い活動という学習の流れを入れるだけではうまくいかないことが多いです。平素からこうありたいという具体的なイメージを持って指導しておく必要があると思います。

### 〈その6〉 質問ではなく意識して発問をする

#### 〈子どもを動かすための発問〉

- ① 思考を焦点化する発問→「これらの式の中で一番分かりやすいのはどれですか。」
- ② 思考を拡散する発問→「コンパスを使わずに円をかく方法がありますか」
- ③ 思考を深化する発問→「最後の場面でごんと兵十の気持ちは通じ合えましたか」

## 【考える力・説明する力を高めるために】

〈実態〉	〈理由〉	〈手立て〉
○学力が低い→①やる気がない		→導入の工夫や指導の工夫
		【取り組み】 ☆ <u>校内研修の充実</u>
→②問題をやってもできない		→基礎学力の定着
		【取り組み】 ☆ <u>かがやきタイムの活用</u>
→③問題を解く経験が不足		→問題に慣れ、表現力を高める
		【取り組み】 ◎ <u>単元別確認テストの活用</u> ☆ <u>日記→書く力を鍛える</u> ☆ <u>スピーチ・フリートーク</u> →話す力を鍛える

### 【提案事項】

※考える力が弱い・説明ができない→嘆くだけでなく一歩踏み出す！

#### ◎算数の単元別確認テストの活用

→教員・子どもの負担にならずに活用するために・・・

#### 〈活用例〉

- ① 『たしかめ道場』の学習の時に、単元別確認テストの『考え方』の部分だけ意識して継続的に取り組ませる。〈別紙プリント参照〉
- ② 業者テストがはやく終わった時に取り組ませる。→答えを後に貼っておく。
- ③ 宿題にする。→答え合わせをする。(かがやきタイム・授業の始めなど)

※学級の実態もあると思いますが、ぜひ可能な範囲で取り組んでみてください。  
→10月の研修などで体験談をお聞かせください。